

KCTB 場所打ち鋼管コンクリート杭

(内面全長突起付き鋼管)

評定内容の変更について

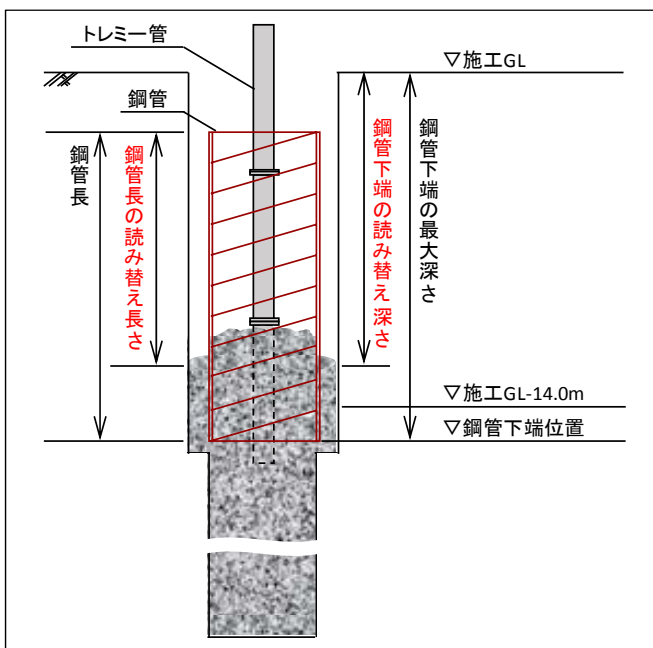
この度、一般財団法人 日本建築センターより平成 28 年 2 月 18 日付けで評定を取得しております『KCTB 場所打ち鋼管コンクリート杭』の評定内容の一部変更を行いましたので報告致します。

区分	既評定	新評定
評定番号	BCJ 評定-FD0356-05	BCJ 評定-FD0356-06
評定取得日	平成 28 年 2 月 18 日	平成 29 年 7 月 28 日

今回の評定において、アースドリル工法およびリバース工法は鋼管部掘削径を鋼管径よりも 200mm 以上、またオールケーシング工法は鋼管径より 300mm 以上大きく掘削し、コンクリート打設圧により鋼管下端から鋼管外周にコンクリートが回り込んで、検尺により鋼管外周のコンクリート天端が測定できた場合、鋼管長および鋼管下端の最大深さをそれぞれ読み替える仕様を追加しました。

■外周オーバーフロー充填における鋼管部掘削径、鋼管長の上限および鋼管下端の最大深さ

掘削工法	アースドリル工法・リバース工法		オールケーシング工法
鋼管径	700~2,700mm		700~2,700mm
鋼管部掘削径	鋼管径+100mm 以上	鋼管径+200mm 以上	鋼管径+300mm 以上
鋼管部掘削深さ	鋼管下端深度 +100mm 以上	鋼管下端深度 +100mm 以上	—
鋼管長の上限	12.5m	12.5m ¹⁾	12.5m ¹⁾
鋼管下端の最大深さ	14.0m	14.0m ²⁾	14.0m ²⁾



- 1) コンクリート打設圧により鋼管下端から鋼管外周にコンクリートが回り込んで、検尺により鋼管外周のコンクリート天端が測定できた場合、鋼管長は「鋼管天端から鋼管外周のコンクリート天端までの距離」に読み替える。ただし、適用できる鋼管長の上限は 16.5m とする。
- 2) コンクリート打設圧により鋼管下端から鋼管外周にコンクリートが回り込んで、検尺により鋼管外周のコンクリート天端が測定できた場合、鋼管下端の最大深さは「施工地盤面から鋼管外周のコンクリート天端までの深さ」に読み替える。ただし、適用できる鋼管下端の最大深さは 18.0m とする。

なお、その他変更箇所は以下の通りです。

- ・鋼管鉄筋コンクリートの継手部位置に関する説明を追記
- ・継手部の図の変更
- ・突起方向角度の値に関する説明を追記

※評定内容の詳細につきましてはお気軽にお問合せ下さい。